

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が80%以上いる。	・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援・助言を行う。	B	B	B	○各自のテーマが適切に判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導した。次年度についても、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索していく。	○Ⅰ 様々な環境や生い立ちにある生徒をきめ細かくご指導いただいていることがうかがえる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。 ○ⅡⅢ 個に応じた適切な指導により、学習意欲や望ましい人間関係づくりにつながっている様子がうかがえる。生活習慣については、家庭との粘り強いやり取りを継続して少しずつでも改善が見られるように期待したい。 ○Ⅳ 社会生活に直結する進路指導と考えられるが、講演や体験を充実させることで生徒、保護者の意識が高められていると感じる。 ○Ⅴ 学校としての取り組み・努力が保護者や地域に浸透してきていると感じる。引き続き開かれた学校づくりを進めていただきたい。 ○Ⅵ DXハイスクールとしての取り組みについて評価されている。ひとつの特色ある取り組みとして、教職員のスキル向上、生徒の活用を進めていただければと思います。
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。	・自己表現が苦手な生徒が多いので、教科毎に様々な工夫しを施して言語活動を取り入れ、授業アンケートによってその効果を検証する。	B	B	B	○新しい学びのための授業改善により、教員がお互いに授業参観をして良いところを研究している。主体的・対話的で深い学びのために、生徒同士が学び合う環境を作っていく必要がある。教員を含めた話し合いや生徒同士の話し合いで、学び合いの形を追求した。来年度も継続していく。	
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上いる。	・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。	B	B	B	○きめ細かな指導を行い、生徒一人ひとりに目が行き届くようにしている。また、生徒が学年を超えてコミュニケーションを行えるよう、学校行事や部活動を支援した。今年度は、新しい行事、運動会や交流会を行った。生徒が中心となって自分たちで行事を作り上げた。今後も生徒個々の特性を理解した上で、一人ひとりが本校で学ぶことに安心感と充足感を持てるよう、様々な場面で支援をする。	
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が80%以上いる。	・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力や社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。	B	B	B	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけた。また、教育相談体制を整えて、問題を抱えたときに、気軽に教員に相談しやすい環境を構築した。また、アンケートを実施し、問題の早期発見に努めた。今後も教育相談的な対応も重視しながら、居心地の良い環境を心掛けていく。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 部活動の大会や地区体育大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定等を受検する機会を設ける。	B	B	B	○対外的な行事への参加をさらに促し、社会性を身に付けるように指導をしている。また、授業での指導を通して、漢字検定等の受検を生徒に呼びかけた。部活動については、加入率が低いので、まずは部員を増やして下級生を中心に恒常的な活動を促していく。検定試験についても教科指導の中でも多くの生徒に受検を呼びかけていく。	○健康で規則正しい生活の評価が低い。家庭的に課題のある生徒が多いと思われる。すでにきめ細かな指導が行われているとは思いますが、生徒自身や保護者との日常的なコミュニケーションに努め、信頼関係に基づく生徒指導が進められるとよい。 ○評価対象Ⅰ-1 ・探究活動に関しても、教職員はより丁寧な支援・助言をしていると思う。生徒を理解して、個々の主体性を育みたい。・多様な背景を抱えた生徒たちを、個々の課題に向き合いながら指導している。効果は確実にあると考えられる。 評価対象Ⅰ-2 ・授業や学校行事も、自己肯定感を高める工夫をしている。学年を越えた学校を挙げての指導体制が機能している。 評価対象Ⅰ-3 ・不登校や学習障害等を否定的に捉えるのではなく、常時手厚くサポートする体制を維持しており、その成果は現れている。 評価対象Ⅰ-4 ・各部活動や検定等への挑戦の機会は、心や体の双方を高める機会ともなっている。参加率を高めることで、より前向きな生徒を増やしていければよいと思う。 評価対象Ⅱ-5 ・学力の差は、それぞれの生徒の家庭環境や生育過程にも要因がある。繰り返し、反復学習をすることで、自信をつけ、成長してきた者には、より高い指導内容をサポートする等、生徒の達成感を大切に育ててほしい。 評価対象Ⅱ-6 ・確かな学力の核心は、母国語である国語の理解と社会人として必須となる漢字の習得にある。その学習成果を、全体で表彰し、認めることは、より学習意欲を高めることに繋がる。今後も継続してほしい。 評価対象Ⅲ-7 ・日々の生徒の言動や体調等、あらゆる場面で、いじめや不安等の兆候を察知し、初期対応を迅速に行い、安定した学習環境を守ってほしい。 評価対象Ⅲ-9 ・不登校や身体的、精神的障害を抱えた生徒も多いことから、1日の生活リズムの大切さを、家庭と連携して培っていくことが肝要である。生徒は少しずつ成長を実感している。 評価対象Ⅳ-10 ・藤岡中央の定時制課程は、創立以来、他校に比して進路講演会や上級学校、企業のガイダンスが多いことで評価されている。地域や卒業生との交流も成果に結びついていると思う。・「定時制便り」も充実しており、長い歴史をもっている。学校行事や進路講演会、ガイダンスやインターンシップ等の様子など、より詳しい情報を発信してほしい。 評価対象Ⅳ-11 ・地域産業や企業も人手不足は否めない。インターンシップも含めて、生徒の社会的適応の準備段階を充実させ、卒業後の就職等にも繋がられるよう、学校と企業相互の理解を深めていくことが有効である。 評価対象Ⅴ-12 ・西毛地区で古い歴史を持つ藤岡中央高校定時制課程が培ってきた、個々の生徒を大切に育てる姿勢やノウハウを、オープンスクールや中学校訪問を、全教職員を投入して実践していくことが、学校の魅力を理解してもらい、学生募集に繋がると思う。・「定時制便り」を保護者、地域、雇用主等に発信するのみならず、時には「便り」の読者からの感想を掲載し、学校理解をより高める方策も大切である。 評価対象Ⅵ-13 ・DXハイスクールの活用もあり、一人ひとりが端末を使って学ぶ体制を作り上げてきた。指導力アップに繋げる研修等の実施は、定時制課程でも大いに評価できる。 評価対象Ⅵ-14 ・全教職員がスクールネットを活用して、諸書類作成を実施しており、今後も大いに効率化を図り、浮いた時間を生徒対応に充てるのが求められる。
		6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。	B	B	B	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率7割以上の生徒が60%以上いる。	・国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。	B		B	○終業式で優秀者を表彰することによって、漢字テストへの取り組み状況も改善してきた。様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性を指導し、更に多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促していく。	○生徒の状況をよく観察し、定期的に情報共有会議を開催して、生徒の様々な問題を一人で抱えず、全職員の共通認識の元で組織的に指導に当たるようにした。今後も、SCや養護教諭（非常勤）とも情報共有を綿密にし、より多方面から生徒を支えられるよう工夫していく。
		8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面で活用できるよう支援する。	A		A	
	9 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努め、解消率が100%である。	・SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。	A	B	A	○欠席等の場合、家庭と必ず連絡を取り、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有した。欠席が多いのは特定の生徒である。遅刻、早退、欠課が多いことは課題である。クラスの人間関係を良好にし、登校しやすい雰囲気をつくるとともに、個々の悩みの早期解決に向けて支援する。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が、80%以上である。	・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。	C		C	○OPTA会長や同窓会長に進路ガイダンスをお願いした。進路ガイダンスの内容を見直すことで、生徒のニーズに合わせることできた。個々の進路希望に合わせて、企業や大学、専門学校にガイダンスをお願いしたり、進路講演会に卒業生を招へいするなどして、より新しい情報を得るとともに、卒業生との交流も行った。今年度、インターンシップを行い、生徒には良い経験になった。コミュニティスクールを活用し、地域と連携して、インターンシップができる事業所を増やしていく。	○組織的な指導のもと、生徒たちが意欲をもってがんばっているように感じました。実際に授業や活動を参観していませんが、生徒たちに授業を通じて、熱心に居場所作りをしていただいていることが読み取れました。「個々の生徒の一日の過ごし方」について、様々な事情を考慮しつつ手立てを講じていただければと感じました。 ○定時制の生徒たちの日頃の様子を見ることのないので、そのような機会があればと思う。生徒それぞれ様々な背景があるなかで、学校として一人ひとりに向き合った関わりがあることがわかる。また、定時制に通う生徒こそ、地域との関わりが必要となる場合もあるかとも思うので、必要に応じて地域人材への声かけを行うと良いと感じる。 ○それぞれの事情がある中でも、なるべく欠席することなく生徒が学校生活を送れるよう、引き続き支援を進めていただきたい。生徒がさまざまな進路を選択できるよう、引き続き、生徒に寄り添った支援を進めていただきたい。
		11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。 ・進路に関する最新情報を入手し提供できるようなしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。	A		A	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図った。また、その内容を進路講演会、進路ガイダンスなどへの講演内容に反映させた。次年度も継続していく。	
	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が、60%以上いる。	・2回以上の保護者面談や進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。	B	B	B	○就職・進路学習を進めるとともに社会との関係を構築するため、可能な範囲で就労体験（アルバイト等）を積極的に勧めた。大半が不登校経験者であることに留意しながらも、社会と積極的に関われるよう指導を進める。今年度から始めたインターンシップ等も活用していく。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑬ 在校生の就業率が50%以上である。(アルバイトを含む)	・個々の生徒の希望に沿った就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくりと考えられるよう指導する ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。	B		B	○中学校教員や保護者などに定時制の魅力やヒアールし、理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通して、本校定時制への信頼を得るよう努めた。オープンスクールへの参加者が増加した。今後も積極的に実施していく。	○学校行事に限らず、学習活動の成果など、様々な面から生徒の活躍が一目でわかるよう、写真を多く掲載した紙面構成にした。昨年度と同様、タイムリーに「定時制便り」を発行した。生徒保護者からの反応も格段に良かったので、この状況を維持していく。
		14 オープンスクールや各中学校への訪問を通して、本校定時制の良さをアピールする。	・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。	A		A	○学校行事に限らず、学習活動の成果など、様々な面から生徒の活躍が一目でわかるよう、写真を多く掲載した紙面構成にした。昨年度と同様、タイムリーに「定時制便り」を発行した。生徒保護者からの反応も格段に良かったので、この状況を維持していく。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑭ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年3回以上行う。	・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。	A	B	A	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用している。DXハイスクール指定校を活用した。DXハイスクールで契約している外部講師にお願いしDXハイスクール講座（生成AIの利活用講座）の実施で、生徒が一人一台端末を活用するよう促した。DXハイスクールで職員研修も数回、実施した。今後も活用を積極的に進めていく。	○多様な生徒に対してキメの細かい指導を進めておられ、数値目標を達成されるだけでなく学校が良い学びの場になっていることを伺わせる評価でした。漢字・計算ドリルや検定の取得など、基礎学力と社会人としての求められる能力の育成に注力されていることは素晴らしいと感じました。そのような取組みと探究としての横断的な取組は難しい点もあるかと存じます。また学外の人的、物的資源を活かしてゆくことも全日制と異なる苦労もあるかと存じますが、この部分を工夫されることで、残念ながら出席状況が思わしくなくなってしまった生徒たちに訴求できる可能性もあるのではと感じています。
		14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。	・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、業務の効率化を進める。	A		A	